



食の冒険者が



憧れるまちへ

図▷記事について…広報統計課 ☎43-2248

▷食の冒険者が憧れるまち・八戸について…観光課 ☎43-9252

八戸は、豊かな海の幸や農畜産物、受け継がれてきた食文化など、多彩な「食」の魅力にあふれています。市では、この魅力をさらに磨き、市民や事業者の皆さんと一緒に、食べるために訪れたいまちを目指してさまざまな取り組みを進めています。

八戸の食を楽しむことも、誰かにその魅力を伝えることも、「食の冒険者が憧れるまち・八戸」をつくる一歩です。皆さんと一緒に、八戸の食を盛り上げていきませんか。

「食の冒険者が憧れるまち・八戸」を宣言しました！

新鮮な魚介類や農畜産物、活気あふれる朝市や横丁、郷土料理や地酒など、八戸には全国に誇れる「食」の魅力が数多くあります。

市では、こうした魅力をさらに磨き、市民、料理人、観光客など全ての「食を探究する冒険者」が集い、輝き、憧れるまちを皆さんとつくっていくため、8月8日に「食の冒険者が憧れるまち・八戸」を宣言しました。当日は、トークイベントや昔懐かしいレシピで作ったひつまみ、飲食店などの出店を通じ、多くの来場者が八戸の食を満喫しました。

宣言はゴールではありません。この宣言を出発点とし、食に関わるさまざまな人や団体と力を合わせながら、食の冒険者が憧れるまちの実現に向けた取り組みを進めていきます。



For Food Adventurers
食のまち 八戸

食の冒険者が憧れるまち・八戸のロゴができました！



「食の冒険者が憧れるまち・八戸」を象徴するイメージとして、ブランドロゴを作成しました。シンボルマークの「八」の部分は、食へ迎え入れる入り口を、「戸」は双眼鏡のイメージを重ねて、八戸の食の魅力を見つけ、楽しむ「食の冒険者」を表現しています。

皆さんにロゴをご活用いただけるよう、現在準備を進めています。

決まり次第、市ホームページなどでお知らせします。



詳しくは
こちら

🍴 八戸市が「美食都市アワード2026」に選ばれました 🍴

美食都市アワード^(※)は、食を軸としたまちづくりの取り組みを評価・表彰する日本初のアワードです。単なる食のおいしさだけでなく、地域の歴史・文化・産業と食の結びつき、持続可能なまちづくりへの貢献が総合的に評価されます。

市内では、さまざまな分野の関係者が、朝市や横丁体験、地元食材を使ったメニューの開発やイベントの企画など、八戸ならではの食体験を観光資源として整備し、多くの来訪者を引きつけています。

こうした、フードフェスティバルやまちづくりを通じた食と観光の融合が評価され、受賞に至りました。

(※)(一社)美食都市研究会が創設。今年は八戸市の他、余市町、飛騨市、日田市が受賞。



🍴 みんなで楽しみ・創る「食の冒険者が憧れるまち・八戸」 🍴

「食の冒険者が憧れるまち・八戸」は、市民や事業者の皆さんと一緒につくっていくものです。今後、食を楽しみ、広め、盛り上げるさまざまなイベントやキャンペーンを展開していきます。

はちのへ食文化博覧会

八戸の食文化を、学びやアート、工芸などの異分野と組み合わせた、新しい食の楽しみ方を体験できるイベントです。

市内各地でさまざまな食文化プログラムを展開し、食べるだけではない、五感で味わう八戸の食を発信することで、市民の皆さんはもちろん、市外から訪れる人にも八戸の食の魅力を広くお届けします。

シンボル事業「ワールドシーフードウォーク」

市内全域で、和・洋・中さまざまなシーフード料理を食べながらまち歩きを楽しむイベントです。スタンプラリーやSNSのハッシュタグキャンペーンも実施予定です。

食のまち・八戸満喫宿泊キャンペーン

市内の宿泊施設や飲食店を応援するため、八戸を訪れる観光客に対する宿泊キャンペーンを実施します。対象の宿泊施設をご利用いただくと適用される宿泊割引や、市内の飲食店で利用できるクーポンの発行を検討しています。



八戸市ふるさとの恵み乾杯条例を制定しました！

八戸圏域産の日本酒やワイン、ビール、ジュースなどの飲み物を皆さんにもっと楽しんでもらいたい、地元食材とかけあわせて圏域の食文化の魅力をもっと高めたいという思いで、乾杯条例を制定しました。

圏域産のお酒やジュースなどで乾杯し、「ふるさとの恵み」を味わいながら、楽しい時間をすごしませんか。

※圏域産飲料の購入・飲酒を強制する条例ではありません。

飲食時は個人の嗜好や意思を尊重しましょう。



詳しくはこちら

固商工課 ☎43-9242

INTERVIEW インタビュー

市民や観光客が多く訪れる、八食センターの事務局販売促進課長・高田^{たかだ}浩平^{こうへい}さんに、八戸の食の魅力についてお話を伺いました。

高田さんは現在、市や関係機関で構成される八戸食文化会議のワーキンググループに参加し、八戸ならではの食の魅力づくりに取り組んでいます。

八戸の食は、今後どのように発展していくのでしょうか。



高田浩平さん

Q 観光スポットとしても人気の高い「八食センター」は、どのような市場ですか？



陸奥湊の有志が集まり、昭和55年に開設しました。当時は卸売り専門の市場でしたが、一般客も買いにくるようになり、徐々に小売りの業態に変化していったようです。

八食センターは、地元の皆さんに楽しんでいただくことを目的に運営しています。時代の流れやニーズに応じて変化し続け、平成15年には七厘村^{しちりんむら}をオープン、今年は飲食ゾーン味横丁をフードコートとしてリニューアルしました。歴史ある店舗から新しく加わった店

舗までバラエティーに富んでおり、楽しみながらセンター内を回っていただけます。

私たちは、八食センターを「なんでも揃う、どこか市場^{ちやう}」とうたっています。海産物からお菓子、お土産まで、何でも揃う場所だというのが、観光客の皆さんにもお越しいただいている理由かなと思います。

Q 八戸の食をどう感じていますか？

何を食べてもおいしいですよ。地元に住んでいると当たり前になってしまい、その良さに気づきにくいのかなと思っています。新鮮な海産物や野菜・果物、朝市や横丁での食体験、どれも市民にとっては当たり前になっているのかもしれない。

仕事柄、地元の人だけでなく、県外から来る人と話す機会も多く、よく「八戸って何食べてもおいしいよね」「いろんなものがあるよね」と言われますが、私も初めはあまりぴんとこなかったんです。

食に関わる仕事をする中で、意識しながらさまざまな物を見たり食べたり、飲んだりすることで、その人たちの話す意味が徐々に分かってきました。



Q 観光資源としての、八戸の「食」の強みは何ですか？



朝市、八食センター、横丁などを回ること、八戸の暮らしに根付いた食文化を、さまざまなシチュエーションで体験できるのが強みだと思います。

八食センターも含め、どの場所も観光客向けにつくられたものではありません。地元の人たちが地元の人に来てほしくて、試行錯誤しながら一生懸命盛り上げてきた場所です。

私たちも旅行時は、その土地ならではの体験を楽しみにして行きますよね。地元の人たちが楽しそうに過ごしている場所で、地元の人と同じ体験ができるというのは、観光客にとって非常に魅力的なことではないかと思います。

Q 食のまち宣言をきっかけに、八食センターで開催するイベントはありますか？



現在、地元の料理人と連携して八食料理道場という調理方法を習得できるイベントを実施しています。八食料理道場を基に、新たに企画しているのが、楽しく食を学べる「八食美食倶楽部(仮称)」です。

食を通じて、八戸の食文化を知り、職人から食の本質を学び、日々の食卓が豊かになるようなプログラムを考えています。

プログラムの内容は、決まり次第ホームページやSNSでお知らせします。



詳しくはこちら

Q 食を学ぶとは、どういうことですか？

「食」は、知れば知るほど楽しくなります。今日の食材にはどんな人たちが関わっていて、いつが旬かを知って食べると、もっと楽しく、おいしくなるんですね。

また、食材に合わせた皿の色や形、盛り付け方、場所の雰囲気にも左右されます。テーブルセッティングも大切ですし、包丁の種類によっても料理の仕上がりは変わるといわれています。八食美食倶楽部は、五感で味わう食について学べる場にしたいです。



Q 食のイベントをきっかけに、どのようなまちになってほしいと思っていますか？



イベントを通して、漁業や農業などの一次産業に携わる人、販売者、料理人、消費者など、食に関わるさまざまな立場の人たちの交流が進んでほしいと思っています。

そして、まち全体で食について話せる場面が増え、「八戸の食ってこうなんだよ」「この食材の旬はこの季節なんだよ」といった話題が会話の中で自然と出てくるようになれば、八戸の食の魅力はさらに広まっていくのではないかと考えています。

Q 食の魅力を高めるための、今後の展望を教えてください

市内では魅力的なイベントが各地で開催されていますが、うまく情報発信できていない、日程が重なってしまうなどの課題があるのではないかと考えています。情報が市民の皆さんに届きやすくなるような取り組みを、八食センターとしても考えたいと思っています。

人とのつながりや出会いも、食を楽しむ大切な要素と考えていますので、人と人とのコミュニケーションを生む場としての役割も担っていきたいと思っています。



市民の皆さんへ
メッセージを
お願いします



八戸の食や食文化を学ぶというとハードルが上がってしまうので、まずは市内の食のイベントに参加して、興味を持ってもらえるとうれしいです。一番は「楽しく、おいしく」です。そんな体験を皆さんに提供できるよう、これからも楽しい企画を考えていきたいと思っています。ぜひ八食センターにお越しください。